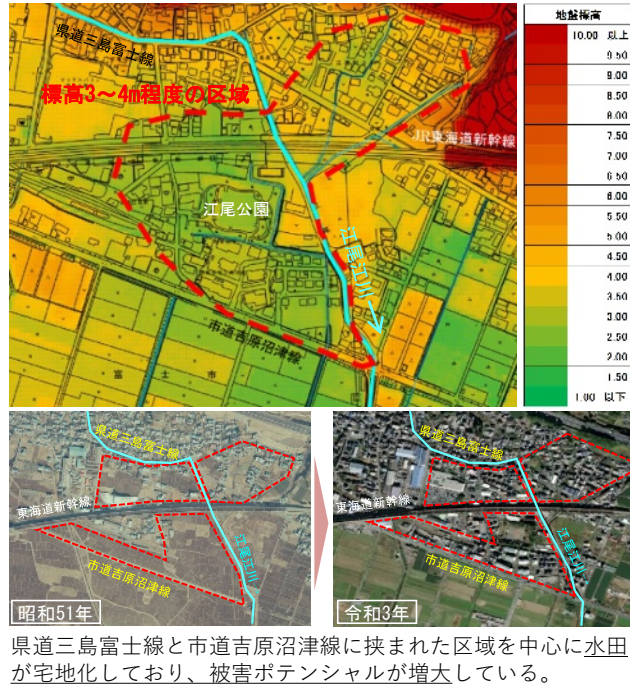
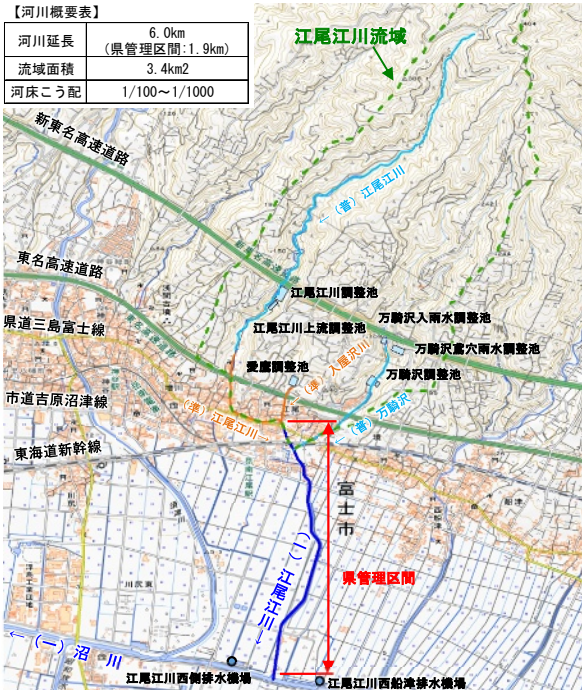


■河川流域、地形、土地利用■

江尾江川周辺は、ほとんどが山麓の森林や茶畑等の農地であり、東名高速道路から市道吉原沼津線までの区域が市街地となっており、市道吉原沼津線より南側は水田地帯となっている。また、江尾江川は合流する沼川と同じく、市道吉原沼津線の交差点付近まで潮位の影響を受ける。

江尾江川周辺の地形は、市道吉原沼津線より南側の水田地帯において地盤標高3m以下の低平地が広がっているが、市街地の一部である赤い破線に囲まれた区域も、標高3~4m程度であり、周辺に比べ低いため浸水被害が発生しやすい。（沼川合流点の計画水位は標高2.37m、堤防高は標高2.97m。）



■近年豪雨による浸水被害■

江尾江川流域では、過去40ヶ年程度において、家屋浸水を伴う浸水被害が10回以上発生している。近年で大きな被害を発生させた水害は、以下のとおり。

| 区分 | H15.7 | H19.7 | H20.7 | H26.10 | R3.7 | |
|----|--------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 浸水 | 床上 | 5戸 | 13戸 | 0戸 | 21戸 | 21戸 |
| | 床下 | 33戸 | 69戸 | 7戸 | 31戸 | 59戸 |
| 雨量 | 1時間最大 | 72mm | 49mm | 72mm | 60mm | 46mm |
| | 24時間最大 | 161mm | 319mm | 135mm | 312mm | 277mm |
| | 総雨量 | — | 339mm | — | 344mm | 374mm |



■気候変動による氾濫リスクの増加■

将来の気温上昇を2℃以下に抑えるというパリ協定の目標を基に開発されたシナリオ(RCP2.6)に基づく将来降雨量は、現状降雨量の1.1倍と予測している。
 「気候変動を踏まえた治水計画のあり方提言（R1.10）より」

Ⅱ 将来降雨の変化

<将来降雨の予測データの評価>

・気候変動予測に関する技術開発の進展により、地形条件をよりの確に表現し、治水計画の立案で対象とする台風・梅雨前線等の気象現象をシミュレーションし、災害をもたらすような極端現象の評価ができる大量データによる気候変動予測計算結果が整備

<将来の降雨量の変化倍率> <暫定値>

・RCP2.6(2℃上昇相当)を想定した、将来の降雨量の変化倍率は全国平均約1.1倍

| 地域区分 | RCP2.6 (2℃上昇) | RCP8.5 (4℃上昇) |
|-------------------|---------------|---------------|
| 北海道北部 北海道南部 九州北西部 | 1.15倍 | 1.4倍 |
| その他12地域 | 1.1倍 | 1.2倍 |
| 全国平均 | 1.1倍 | 1.3倍 |

※IPCC等において、定期的に予測結果が見直されることから、必要に応じて見直す必要がある。
 ※沖縄や奄美大島などの島しょ部は、モデルの再現性に課題があり、検討から除いている



■水災害対策プランの基本方針■

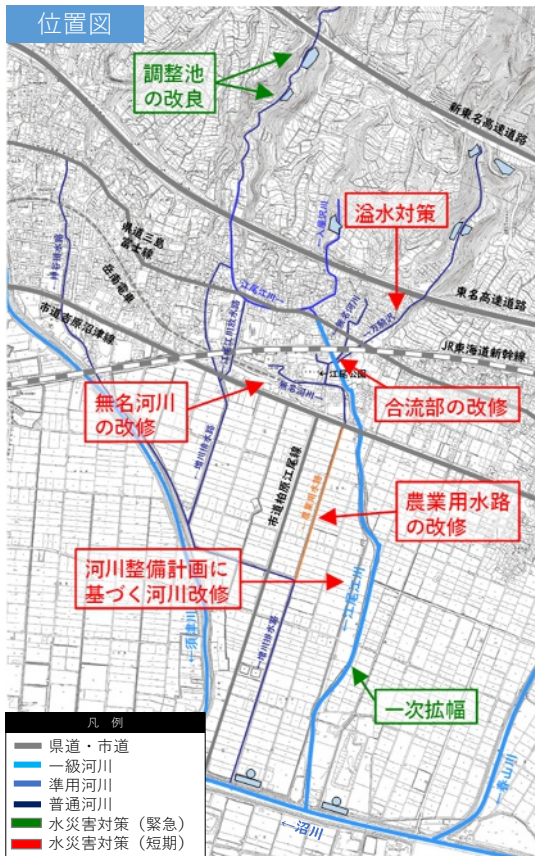
「江尾江川水災害対策プラン」は、浸水被害が頻発している江尾江川周辺を対象とし、行政機関による河川改修を進めることはもとより、住民一人ひとりを含む、あらゆる関係者が、浸水被害の実態や原因、対策の目標についての認識を共有し、流域全員が協働して流域全体で行う持続可能な取り組みべき治水対策[流域治水]を示したものの。水災害対策プランの目標は、**短期的な取組**と**長期的な取組**に分け、それぞれの目標の達成を目指す。

江尾江川水災害対策プランの目標

| 区分 | 短期的な取組 | 長期的な取組 |
|------|---|---|
| 対象 | 令和3年7月洪水で浸水被害が発生した地区を対象とする | 過去未経験の集中豪雨の発生を想定し、壊滅的被害を回避する |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●床上浸水を解消すること ●道路冠水を軽減すること ●逃げ遅れによる人的被害をなくすこと ●氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること | |
| 対象期間 | 概ね10年間 | 将来 |
| 対象降雨 | R 3.7 豪雨 (実績) 46mm/h 277mm/24時間 | 将来計画の降雨量 (確率1/50の1.1倍) 88mm/h 399mm/24時間 |



■河川・水路等の改修計画■



県

緊急・一次拡幅工事（沼川～市道吉原沼津線）
※市道吉原沼津線の権太給橋含む

短期・河川改良工事（沼川～県道三島富士線）
※1.0年に1回程度発生すると想定される規模の洪水に対応できる河川

長期・河川改良工事（沼川～県道三島富士線）
※5.0年に1回程度発生すると想定される規模の洪水に対応できる河川

■一次拡幅イメージ

考え方
・現況河川を官地内で拡幅
・市道より上流側と同じ断面で拡幅
(赤色破線：現状の河川断面)

■河川改良イメージ

考え方
・短期は1/10確率での河川拡幅工事
・長期は上記整備後に1/50確率での河床掘削工事を実施
(黄色破線：将来計画の河川断面)

市

緊急・新東名開発時の調整池等2箇所における改修

短期・江尾江川左岸無名河川と江尾江川との接続
※無名河川の水を一級河川江尾江川に排水
・農業用水路・江尾江川右岸無名河川の改良工事
・万騎沢の洪水対策工事（県道三島富士線より上流）

長期・流域内の準用河川・普通河川の改良工事
※7年に1回程度発生すると想定される規模の洪水に対応できる河川

準用河川
普通河川
農業用水
調整池等

河川整備等のハード対策による氾濫シミュレーションを実施
（令和3年7月の梅雨前線豪雨と同様の降雨に対して
緊急対策（2～3年）と短期対策（概ね10年）のハード整備効果を検証）



河川対策だけでは浸水リスクはなくなる

あらゆる関係者による浸水対策

※浸水リスクを軽減するための取組例

あらゆる関係者との協働により、以下の目標を目指す

- 床上浸水を解消する
- 道路冠水を軽減する
- 逃げ遅れによる人的被害をなくす
- 氾濫発生後の社会機能を早期に回復

■あらゆる関係者との対策■

左記のハード対策だけでは、内水が要因となる浸水リスクが残る。流域の壊滅的被害を回避するためには、河川管理者等による河川対策だけでなく、流域内における流出抑制対策も含め、流域が一体となり、あらゆる関係者の協働により流域治水を進める。対策の特徴から3分類し、各々の対策内容を推進する。

- ①氾濫をできるだけ防ぐための対策
- ②被害対象を減少させるための対策
- ③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

| 主な施策名 | 短期 | 長期 |
|--|----|----|
| | 緊急 | |
| ①氾濫をできるだけ防ぐための対策 | | |
| 江尾江川普通河川 河川整備等（左記の対策） | | |
| 調整池等の運用見直しや機能向上（市） | | |
| 農業用排水ポンプ場の運用見直し（県市） | | |
| 公共施設の適切な維持管理（県市） (道路、河川、農水路、貯留施設) | | |
| 農地・森林の保全・維持（県市市民） (水田における事前取水停止・事前排水) | | |
| 住宅等の浸透・貯留施設の設置・助成（市市民企業） | | |
| ②被害対象を減少させるための対策 | | |
| 防災指針に基づく取組の推進[立地適正化計画]（市） | | |
| 住宅地盤嵩上げ及びその利子補給（市市民） | | |
| ③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 | | |
| 洪水浸水想定区域図等の作成・公表（県市） | | |
| ハザードマップの作成・公表（市） | | |
| 土のうステーションや水防倉庫の整備（市市民） | | |
| 緊急排水用ポンプの運用（市市民） | | |